

『時事直言』 No.1813 2026年6月25日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[instagram] [t.masuda2026](https://www.instagram.com/t.masuda2026)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

金価格の不思議

アメリカのインフレは加速している。

インフレでドルの価値が下がっているのに何故金価格は下がるのか。

今日米国時間 6月24日には1オンス150ドルも下がった。

ウクライナ戦争、イラン戦争など世界は地政学上の不透明、不安定の中にある。

有事なのに何故安全資産の金を買われないのか。

7月4日のアメリカ建国記念日にトランプ大統領が「金本位制」を発表するという「噂」がネットで炎上している。

金本位制なら金価格は高騰しなくてはならないのに何故下がるのか。

金本位制になるとドル高、市場金利上昇、国家と企業の金利負担が増加、物価はデフレ化するので、景気が過熱している時に実施するのが適している。

現在のアメリカは適していると言える。

1971年のニクソン・ショック(ドルと金の交換制廃止)はドルを持て余した貿易黒字国のドルを金に交換する動きが加速し、3万トン持っていたアメリカの金が今日の8,130トンにまで減少したので、やむを得ない措置であった。

金本位制をトランプ大統領に確かめると、答えは曖昧、やるともやらないとも言わない。

しかしFRBも米財務省も大量の金を購入している形跡はない。

そうすると金本位制は無理と言うことになる。

アメリカが金本位制を復活するかしないかの重大性はイラン戦争の比ではない。

金本位制はあり得ないのにトランプは何故曖昧なのか。

トランプは本年金本位制の噂が広まり始めた頃から金の現物(金塊)を買っている。

イラン戦争が始まった2月頃から買い続け、特に6月は購入量が激増している。

金価格は2月から6月まで約25%下落している。

トランプの金購入量が増えると金価格がより下がっている。

株価もトランプとウォール街が結託しているように見えるが、金先物市場もそうであるなら、トランプの買いコストを下げる為、先物で下げて、現物で買っているのかも知れない。

もしトランプが独立記念日に、「金本位制について考えている」と言えば金は高騰する。

トランプが出来ないことを出来ると言うのは日常茶飯事だから、ないこともないのではないか。

もしそうなら、上記の不思議はすべて納得出来る。

ジム・リカードさんに私の想像を話してみようと思っている。

いずれにしても金価格についての詳しいことと、暴落を前にした投資戦略は増田塾でアドバイスします。

増田塾の皆様には、昨日ニッケイ先物を何が何でも買うように強く勧めたが、今日は約2,000円も上げている。

株をやっている皆様でまだ増田塾に入っていない方は早く入会することをお勧めします。

早く入会しただけ余分に儲かるというもの。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。